

障害者のデジタル技術活用支援者養成講習会 コース概要（令和7年度版）

東京都障害者IT地域支援センター

1. 対象者

- (1) 東京都内の区市町村の職員
- (2) 東京都内の支援施設・機関の従事者
(障害者福祉センター、障害者就労支援センター、
福祉施設の職員等)
- (3) 地域におけるデジタル技術活用支援ボランティア等



2. コースの内容と日程

この講習会では、各コースにおいてその分野で活躍する著名な講師をお招きし、日常生活の中で直面する困りごとをデジタルの力で支援する方法を学びます。地域の課題やご自身の関心に合わせて、自由にコースを選択いただけます。また、複数のコースを同時に受講することも可能です。

(1) 見ることの困難を支援するコース 6月24日(火)・6月26日(木) 研修内容は各日とも同じ

概要	視力による情報利用の困難をカバーする		
カリキュラム	<ul style="list-style-type: none">・視力による情報入手に困難がある障害とは・弱視、あるいは全盲の方等の機器操作を助ける支援技術のデモと演習 (専用機、汎用機、周辺機器の活用例、PC Talker 体験やスマートフォン・タブレット実機 体験)・事例とポイント		
主に対象となる障害	視覚障害(全盲、弱視)、その他視力があっても見えづらさをかかえている方 等		

(2) 聞くことの困難を支援するコース 7月1日(火)・7月3日(木) 研修内容は各日とも同じ

概要	聴力によるコミュニケーションの困難をカバーする		
カリキュラム	<ul style="list-style-type: none">・当事者の講師から聴覚障害と支援(困難や工夫、当事者の心理や感情等)を学ぶ・聞こえない・聞こえづらい方へのデジタル支援・具体的な支援ツール(筆談ボードや音声認識アプリ等)を使った実践ワークショップ・災害時の情報支援のポイントと具体策のヒント		
主に対象となる障害	聴覚障害 等		

(3) コミュニケーション(会話)の困難を支援するコース 8月12日(火)・8月14日(木) 研修内容は各日とも同じ

概要	口話によるコミュニケーションの困難をカバーする — 会話補助的な支援技術を中心に(意思伝達装置を除く)	 
カリキュラム	・口話によるコミュニケーションに困難をかかえる障害とは ・コミュニケーションを助ける支援技術のデモと演習 (専用機、汎用機、周辺機器の活用例、スマートフォン・タブレットの実機体験) ・当事者から利用の工夫を学ぶ	
主に対象となる障害	発達障害や知的障害、様々な要因による言語障害 等	

(4) 意思伝達の困難を支援するコース 8月19日(火)・8月21日(木) 研修内容は各日とも同じ

概要	身体機能の低下による意思表出の困難をカバーする	 
カリキュラム	・意思の伝達に困難をかかえる障害とは ・意思伝達を助ける支援技術のデモと演習 (専用機、汎用機、周辺機器の活用例、視線入力装置の実機体験) ・事例とポイント	
主に対象となる障害	神経難病(ALS 等)や、脳血管障害の後遺症 等	

(5) 動くことの困難を支援するコース 8月26日(火)・8月28日(木) 研修内容は各日とも同じ

概要	肢体不自由による情報機器の操作困難をカバーする	 
カリキュラム	・情報機器の物理的な操作に困難をかかえる障害とは ・操作困難を助ける支援技術のデモと演習 (専用機、汎用機、周辺機器の活用例、Windows・スマートフォン・タブレットの実機体験) ・事例とポイント	
主に対象となる障害	上肢障害(肢体不自由) 等	

(6) 理解、認知、記憶の困難を支援するコース 9月2日(火)・9月4日(木) 研修内容は各日とも同じ

概要	障害や疾病による、理解、認知、記憶等の困難をカバーする	 
カリキュラム	・理解、認知、記憶等に困難をかかえる障害とは ・様々な場面での支援技術のデモと演習 (専用機、汎用機、周辺機器の活用例、スマートフォン・タブレットの実機体験) ・事例とポイント	
主に対象となる障害	発達障害、高次脳機能障害、知的障害、失語症 等	

3. 研修会場 東京都社会福祉保健医療研修センター 303教室
4. 研修時間 午後1時～午後5時
5. 定員 各コース 10名程度
6. 受講料 無料
7. 申込方法 先着順にて受付
当センターの WEB サイトからオンラインでお申込みください。
<https://www.tokyo-itcenter.com/workshop>

以上